

# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の  
横顔

○中○

うかがえる。またピアノの世  
界は徒弟制度的な体質が強い  
が、その壁を取り払い、ピ  
アノの本質追求を共通の目的  
として研鑽に励んでいるのは国  
内でも他に例がない。現在の  
会員の出身校も武蔵、国立、

◇ディスクール・シユル  
・ピアノ会員  
貝嶋夕美子、笠原智恵子、  
笠原茂子、林雅子、高橋寿子、  
仲西純子、熊木久子、谷内田  
きよ子、山口美智子、町居実

喜子、松永千鶴、藤田敦子、  
高坂良金、近藤友子、越後和  
恵、荒谷宏、荒木裕子、斎藤  
雅子、佐々木美幸、七戸孝枝、  
白取栄子、広田曜江、森勢直  
子、桃井信子

独自の研究や

発表活動

音楽について語り合おうー 連弾、アンサンブルを中心に

へ音楽

ディスクール・シユ

ル・ピアノ(代表・笠原茂子氏)

という意味をフランス語訳し  
たのが「ディスクール・シユ  
ル・ピアノ」その名称の通り  
従来のピアノ研究組織にあり  
に成果をあげている。  
発足は昭和四十六年。当初

昭和の各音楽大学、上野学園、

## ピアノの本質追求

### アンサンブルに地道な活動

がちな殻を打ち破った斬新さ  
で、演奏技術、芸術性の追求

五人でスタートした「ディス  
クール」だが、現在はメン

札幌大谷、玉川学園、教育大  
釧路分校というバラエティ  
さ。

### 毎年の演奏会 でテーマ設定



笠原茂子代表

ピアノはソロが尊重され、  
連弾やアンサンブルは軽視さ

パーも二十四人を数え、音大  
を卒業したばかりの新人から  
ピアノ教授、さらに数多くの  
発表会を行っているベテラン  
まで、年齢も二十三歳から五  
十一歳とその奥行き深さが

それがちだったが「個人の技術  
や個性がぶつかり合い、新し  
い音を生み出すアンサンブル  
がきちんとできてこそ、ソリ  
ストとしての実力も本物にな  
る」というのが根底に流れる  
音楽理念でもある。そのため  
月二回の練習日には出席した  
全員が実際に音を出し、批評  
し合うため、深夜にまで及ぶ

ことも希ではない。また年に  
一、二回の割で開く演奏会も  
今年で十三回を迎え各回ごと  
に設定したテーマの追求は高  
く評価されている。

### 互いに刺激し 合える場を

代表の笠原茂子さんは「と  
かく排他的になりがちな世界  
だが、自由にピアノを語り、

互いに刺激し合える場のある  
ことは、技術的にも、人間的  
にも栄養分となる。伴奏法の  
研究は大曲の消化に結びつく  
ものである。将来はプロのオ  
ーケストラをバックにピアノ  
コンチェルトを開くのが夢」  
と語っている。



連弾、アンサンブルの演奏  
研究に取り組む ディスク  
ール・シユル・ピアノ

## アツパル君

木崎ゆきお

